

## 看護学講座 育成期看護学

### 1. 領域構成教職員・在職期間

|    |        |          |
|----|--------|----------|
| 教授 | 波崎 由美子 | 2004. 4～ |
| 講師 | 嶋 雅代   | 2013. 4～ |
| 助教 | 内江 希   | 2016. 4～ |
| 助教 | 三反崎 宏美 | 2017. 4～ |
| 助教 | 高村 理恵子 | 2018. 4～ |
| 助教 | 飯田 悠希子 | 2019. 5～ |

### 2. 研究概要

#### 研究概要

本領域は次世代の健康・養育を担う女性と子どもに焦点を当て、次世代を産み育てる女性のライフステージすべてに関わる健康支援、母子の健康問題に関する研究を主な内容としている。また「ウイメンズヘルス」と「母性看護学・助産学」「小児看護学」の教育の質の向上と評価にも力を注いだ。

具体的には科学研究費補助金を基盤に、若年がん患者、AYA世代がん患者に対する妊孕性支援看護モデル構築、生殖補助医療を受療する高年齢の女性のQOL工場に向けた関連探索研究、児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価、妊娠婦婦を取り巻くソーシャルサポーターへの支援の検討、医療的ケアの必要な子どもとの親における災害への備えに向けた支援についての検討について研究を実施している。

#### キーワード

妊孕性支援、AYA世代がん患者、連携、協働、不妊症、生殖補助医療、妊娠期、体圧分散、寝心地、胎児娩出法、熟練助産師、分娩外傷予防、ソーシャルサポート、親役割、祖父母、孫育て、子育て支援、医療的ケアの必要な子ども、災害の備え、アトピー性皮膚炎、スキンケア

#### 業績年の進捗状況

波崎について、2021年度は、わが国の若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題について実態を論文にした。妊孕性意思決定支援には多様な専門・認定看護師が携わっていた。妊孕性支援に取り組んでいる施設は約半数で他施設連携が主流であった。妊孕性に関する情報提供ではがん・生殖領域の看護師間で役割が分担されていること、領域、連携形態の違いによって若年乳がん患者に提供する情報内容が相違する可能性が示された。看護実践では、領域によって関与できる時期・時間に違いがあるが、態度に差はなく、妊孕性温存の重要性を認識していた。今後は、妊孕性支援に取り組んでいるがん領域と生殖領域の看護師の領域間の連携と協働の実態と課題を明らかにするべく、研究分担者とともにフィールドを調整中である。

嶋について、ARTを行っているクリニック4施設の協力のもと、40歳以上でART受療中の女性を対象にARTによるホルモン変動落差に関連する更年期様症状と関連要因を明らかにするため、簡略更年期指数（SMI）、不妊に関するQOL（FertiQoL）、CES-Dうつ病自己評価尺度について質問紙調査を実施した。現在その分析を進めているところである。また、同様に40歳以上でARTを1周期以上受療した経験のある女性を対象にART受療時の特有の心身の変化、とりわけ更年期様症状についてインタビューを行い、質的分析を進めている。妊娠と臥床時の体圧については、妊娠に伴う身体的変化が最も大きくなる妊娠後期の妊婦における臥床時の体圧と臥床体位、ベッドの頭部挙上角度、マットレスの種類との関連について明らかにすることを目的に、15名の女性を対象に検証実験を行った。その結果、妊娠後期における妊婦の仰臥位の体圧は非妊娠時と比べて有意に高いことを明らかにした。そのため、マットレスの種類によっては適切に除圧されないことが予測され、妊娠経過に伴って特異的な変化が起こる妊婦の身体的特徴を踏まえたマットレスの選択が必要であることを示唆した。これは第24回日本褥瘡学会学術集会で口演した。

内江について、助産所熟練助産師は、自然な陣痛と胎児自身の回旋力による出産を見守る方法を実施していることから助産学基礎テキストにおける分娩助産の技術とは異なる内容であったことを明らかにした。これについては、福井大学医学部研究雑誌に論文が掲載された。この結果をもとに、「児が屈位姿勢を保持できるよう、小さいままでの娩出を実施し、肩甲から軀幹娩出時も、自然な陣痛を待ちゆっくり娩出させることが、分娩外傷予防だけでなく、出生後の児の健康状態促進のために重要」という助産所熟練助産師の分娩助産手技とその考え方について明らかにした。この結果について、日本助産学会誌に掲載された。これらを踏まえ、児の侵襲を最小限とする分娩助産法による出産での産婦と新生児の健康状態を明らかにするため、「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」を行った。結果、助産所助産師が行う分娩助産方法では、教科書通りの方法に比較して、母親の会陰裂傷は少なく、児の子宮外生活適応はよりスムーズであった。これについては、日本助産学会誌に投稿予定である。また、さらに、助産教育の発展のため、「熟練助産師の技を伝える新たな分娩助産技術習得のためのVR教材の開発」の研究に取り組んでいる。

三反崎について、仕組みとしての子育て支援や育児代行などの役割を担う子育て支援だけでなく、人生経年や子育て経験の豊富な世代から精神的に与えられるものが、孤独に陥らない育児には必要不可欠と考える。その担い手の高齢者がどのように地域で子育て支援を行っているのか、子育て支援を受けた母と子がかかるような影響を受けているのかが文献レビューにて明らかになった。また、子育て支援の担い手の高齢者が抱えている支援に関する課題も明らかになった。この過程を踏まえたうえで次の研究計画に繋げている。また、これまでの文献レビューの結果を現在論文作成中である。

高村について、「医療的ケアが必要な子どもとの親が主体的に災害へ備える力を育むプログラム開発」を進めるべく、研究協力施設との調整を行っている。飯田について、「生後3～4か月児をもつ母親の子どもへのスキンケア行動の実態と影響要因」について、産褥期から育児期にかけた切れ目のないスキンケア教育について検討することを目的に、生後3～4か月児を持つ母親を対象に8施設で調査を実施中である。

#### 特色等

母性看護学・助産学および小児看護学領域の教育・研究は、母親、子ども、女性、家族の視点で、それらを取り巻く人々のより良い健康、QOLを目指すことを目的に、国内だけでなくとどまらず国外にも研究成果を発表してきた。これらは本学の理念と一致するものである。

#### 本学の理念との関係

波崎は、基盤研究（C）「日本のAYA世代女性ががん患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創生」に関する研究を実施している。がん治療の進歩と生殖医療技術の進歩と普及により、生殖可能年齢にある小児・AYA世代がん患者のがん治療後の妊孕性保持に対する支援が必要とされている。福井県の地域医療の特性に応じたがん領域と生殖領域の医師や看護師の連携と協働が不可欠であり、その支援体制の構築を目指すものである。本研究は、地域社会に貢献する実践的な研究にあり、本研究成果により、AYA世代女性ががん患者の性の健康とクオリティオブライフへの貢献が期待できる。

嶋は、若手研究「後年女性に対する生殖補助医療（Assisted Reproductive Technology：以下ART）終結後のQOL向上に向けた看護支援モデルの構築」を進めている。不妊治療受療にもかかわらず挙児を得ることなく終結した女性の心身の状況について文献レビューし、不妊治療終結後の女性への看護支援について検討した。国内外の文献について5データベースから抽出し、最終的に5文献を分析対象とした。その結果、不妊治療終結後の女性は自殺のリスクが高いことが示された一方で、挙児を得たカップルと比較しても全体的な人生の満足度やパートナーシップへの満足度、性的満足度に有意差はないことや、不妊治療で得られた経験を前向きにとらえ、夫婦で乗り越える過程が示された。しかし不妊治療を終結した後の女性を対象とした研究は少なく、特に身体的変化について明らかにする必要性が示唆された。現在は、40歳以上でART受療歴のある女性を対象に、ART受療中の女性ホルモン変動に伴う心身の変動について質問紙調査を進めている。本研究により、40歳以上の高年齢の女性におけるART受療時の特有の心身の変化、とりわけ更年期様症状について明らかになり、治療中から継続的な情報提供を中心とした看護支援モデルを構築することで、ARTを受療する女性のQOLへの貢献が期待できるという意義がある。また、妊娠に伴う身体的変化が最も大きくなる妊娠後期の妊婦において、臥床時の体圧分散、臥床体位、ベッドの頭部挙上角度と寝心地の関連について明らかにし、「妊婦にとっての寝心地のよさ」について検討すること目的とした研究を進めている妊婦の経過に伴って体重や姿勢が変化する「妊婦の臥床時の寝心地」についての示唆が得られることにより、臥床時に適度に体圧が分散し、容易に寝返り動作ができることで良質な睡眠を確保し、妊娠期のQOLを向上させ、健やかな周産期を過ごすことにつながるという意義がある。

内江は、若手研究「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」において、助産所助産師が行う自然な陣痛と胎児自身の回旋力を見守る分娩助産方法と、施設助産師が行う教科書通りの方法での産婦と新生児の健康状態を比較した。結果として、助産所助産師が行う分娩助産方法では、教科書通りの方法に比較して、母親の会陰裂傷は少なく、児の子宮外生活適応はよりスムーズであったと言える。本研究の成果により、助産学テキストでの分娩助産法の記載を見直し、児の侵襲を最小限とする助産方法について検討するための基礎データとなり、今後の助産師教育に役立てる一助となる。これらの結果について、日本助産学会誌に論文を投稿予定である。

三反崎は、基盤研究（C）「家族から地域へ拡張した異世代間の子育て支援プログラムの開発」を進めている。子育ての渦中にいる両親と子どもと、子育て支援をしている祖父母の三者に利益のある子育て支援の形を調査・検討している。

高村は、若手研究「医療的ケアが必要な子どもとの親が主体的に災害へ備える力を育むプログラム開発」研究において、医療的ケアの必要な子どもとの親における災害への備えについて概念分析を行い、概念の構成要素を明らかにし定義づけた。その結果をもとに、現在プログラムの原案を準備中である。本プログラムは、一方的な知識の享受だけでなく、考え実施する力を養うことを目的としており、子どもの成長発達や病状の変化に沿った備えを継続していくことや親同士のピアサポートにもつながることが期待できる。

飯田は、近年、アレルギーマーチの起点となりうるアトピー性皮膚炎の治療には適切な情報提供とアドヒアランスを高める患者教育が重要であることから、初回の看護介入となる乳幼児期の教育的支援を検討することを目的に、乳幼児期の子どもを持つ母親を対象とした「福井県嶺北の子育て支援センターに通う母親の子どもへのスキンケアの実態」を実施し、洗浄剤の泡立て方や保湿剤の塗り方について過半数の母親が知識がなく、また知識を得ても準備の大変さや時間がかかることを理由に実施が難しいと考える母親が存在することを明らかにした。子どもが発達段階や家族の背景を考慮したスキンケアプログラムを構築することにより、個別性に合わせた支援が可能となり、アドヒアランスを高める患者教育に貢献できるものである。

## 3. 研究実績

| 区分     |               | 編数          |        | インパクトファクター（うち原著のみ） |        |
|--------|---------------|-------------|--------|--------------------|--------|
|        |               | 2015～2020年分 | 2021年分 | 2015～2020年分        | 2021年分 |
| 和文原著論文 | ファーストオーサー     | 1           | 4      | —                  | —      |
|        | コレスポンディングオーサー | 0           | 0      | 0(0)               | 0(0)   |
| 英文論文   | コレスポンディングオーサー | 0           | 0      | 0(0)               | 0(0)   |
|        | その他           | 0           | 0      | 0(0)               | 0(0)   |
| 合計     |               | 0           | 0      | 0(0)               | 0(0)   |

## (A) 著書・論文等

## (1) 英文：著書等

## a. 著書

## b. 著書（分担執筆）

## c. 編集・編集・監修

## (2) 英文：論文等

## a. 原著論文（審査有）

## b. 原著論文（審査無）

## c. 原著論文（総説）

## d. その他研究等実績（報告書を含む）

## e. 国際会議論文

## (3) 和文：著書等

## a. 著書

## b. 著書（分担執筆）

## c. 編集・編集・監修

## (4) 和文：論文等

## a. 原著論文（審査有）

21113001

波崎由美子、佐々木綾子：若年女性乳がん患者の妊孕性温存への情報提供および意思決定支援に関する国内外研究の動向と課題，福井大学医学部研究雑誌，22(1)，1-13，202203

21113002

三反崎宏美、波崎由美子、嶋雅代、内江希：福井県在住の祖父母が孫育てを通じて自己の存在を自覚する心理的要因，福井大学医学部研究雑誌，22，29-42，202203

21113003

高村理絵子、嶋雅代：日本での医療的ケアの必要な子どもの親における災害への備えの概念分析，日本災害看護学会誌，23(2)，53-64，202112，DOI: 10.11477/mf.7008200572

21113004

嶋雅代、上澤悦子：拳児を得ることなく不妊治療を終結した女性の心身の状況に関する文献レビュー，日本不妊カウンセリング学会誌，20(2)，105-111，20211220

## b. 原著論文（審査無）

## c. 総説

## d. その他研究等実績（報告書を含む）

## e. 国際会議論文

## (B) 学会発表等

## (1) 国際学会

## a. 招待・特別講演等

## b. シンポジスト・パネリスト等

## c. 一般講演（口演）

## d. 一般講演（ポスター）

21113005

Uchie Nozomi, Hiromi Mitasaki, Etsuko Kamisawa: Factors Concerning the Difference in Delivery Procedures of Skilled Midwives in Japan, 32nd ICM Virtual Triennial Congress, 20210602

## e. 一般講演

## f. その他

## (2) 国内学会（全国レベル）

## a. 招待・特別講演等

## b. シンポジスト・パネリスト等

## c. 一般講演（口演）

21113006

波崎由美子、佐々木綾子：若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題，第62回日本母性衛生学会学術集会，20211015

21113007

内江希、三反崎宏美、上澤悦子：Watching法での分娩助産技術による母児の健康状態評価，第36回日本助産学会学術集会，20220320

21113008

三反崎 宏美、波崎 由美子、嶋 雅代、内江 希：祖父母が孫育てを通して自覚する自己の存在，第62回日本母性衛生学会学術集会，20211015

## 業績一覧

## d. 一般講演（ポスター）

21113009

高村 理絵子, 嶋 雅代: 日本での医療的ケアの必要な子どもの親における災害への備えの概念分析, 日本災害看護学会 第23回年次大会, 20210904

21113010

嶋 雅代, 上澤 悦子: 育児を得ることなくARTを終結した女性の身体的・心理社会的状況に関する文献レビュー, 第19回日本生殖看護学会学術集会, 20210912

## e. 一般講演

## f. その他

## (3) 国内学会（地方レベル）

## a. 招待・特別講演等

## b. シンポジスト・パネリスト等

## c. 一般講演（口演）

## d. 一般講演（ポスター）

## e. 一般講演

## f. その他

## (4) その他の研究会・集会

## a. 招待・特別講演等

## b. シンポジスト・パネリスト等

## c. 一般講演（口演）

## d. 一般講演（ポスター）

## e. 一般講演

## f. その他

## (C) 特許等

| 区分 | 内容（発明の名称） | 発明者又は考案者 |
|----|-----------|----------|
|----|-----------|----------|

## (D) その他業績

## 4. グラント取得

## (A) 科研費・研究助成金等

| 区分            | プロジェクト名 | 研究課題名                                    | 代表者名   | 分担者名                              | 研究期間              | 金額（配分額）    |
|---------------|---------|------------------------------------------|--------|-----------------------------------|-------------------|------------|
| 区分            | 研究種目    | 課題名                                      | 代表者名   | 分担者名                              | 研究期間              | 金額（配分額）    |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究    | 高年女性に対するART終結後のQOL向上に向けた看護支援モデルの開発       | 嶋 雅代   |                                   | 20190401-20220331 | ¥1,300,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究    | 医療的ケアの必要な子どもの親が「主体的に災害へ備える力」を育むプログラム開発   | 高村 理絵子 |                                   | 20200401-20230331 | ¥1,560,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | 「家族から地域へ拡張した異世代間の子育て支援プログラム」の開発          | 三反崎 宏美 | 高村 理絵子, 内江 希, 嶋 雅代, 波崎 由美子, 上澤 悦子 | 20210401-20240331 | ¥2,340,000 |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 若手研究    | 児への侵襲を最小限とする分娩介助法での母親と新生児の健康状態評価         | 内江 希   |                                   | 20180401-20220331 | ¥0         |
| 文部科学省科学研究費補助金 | 基盤研究(C) | 日本のAYA世代女性が、妊婦の妊娠性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創成 | 波崎 由美子 | 内江 希, 上澤 悦子                       | 20190401-20220331 | ¥1,560,000 |

| 区分 | 機関名 | 課題名 | 研究者名 | 研究期間 | 契約金額 |
|----|-----|-----|------|------|------|
|----|-----|-----|------|------|------|

| 区分 | 機関名 | 課題名 | 研究者名 | 研究期間 | 契約金額 |
|----|-----|-----|------|------|------|
|----|-----|-----|------|------|------|

## (B) 奨学寄附金

|      |            |
|------|------------|
| 受入件数 | 1          |
| 受入金額 | ¥1,000,000 |

## 5. その他の研究関連活動

## (A) 学会開催等

| 区分 | 主催・共催の別 | 学会名 | 開催日 | 開催地 |
|----|---------|-----|-----|-----|
|----|---------|-----|-----|-----|

## (B) 学会の実績

| 学会の名称         | 役職   | 氏名     |
|---------------|------|--------|
| 日本看護科学学会      | 一般会員 | 波崎 由美子 |
| 日本ウーマンズヘルス学会  | 一般会員 | 波崎 由美子 |
| 日本助産師会        | 一般会員 | 波崎 由美子 |
| 日本母性看護学会      | 一般会員 | 波崎 由美子 |
| 日本母性衛生学会      | 代議員  | 波崎 由美子 |
| 日本母性衛生学会      | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 日本生殖看護学会      | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 日本母性看護学会      | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 日本災害看護学会      | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 福井県母性衛生学会     | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 日本不妊カウンセリング学会 | 一般会員 | 嶋 雅代   |
| 福井県母性衛生学会     | 一般会員 | 内江 希   |
| 日本母性衛生学会      | 一般会員 | 内江 希   |
| 日本助産学会        | 一般会員 | 内江 希   |

## 業績一覧

|               |      |        |
|---------------|------|--------|
| 日本小児看護学会      | 一般会員 | 高村 理絵子 |
| 日本看護技術学会      | 一般会員 | 高村 理絵子 |
| 福井県小児保健協会     | 一般会員 | 高村 理絵子 |
| 日本災害看護学会      | 一般会員 | 高村 理絵子 |
| 日本小児臨床アレルギー学会 | 一般会員 | 飯田 悠希子 |
| 福井県小児保健協会     | 一般会員 | 飯田 悠希子 |

## (G) 座長

| 国内学会<br>(全国レベル) | 学会名            | 氏名     |
|-----------------|----------------|--------|
| 一般講演 (口演)       | 第36回日本助産学会学術集会 | 波崎 由美子 |

## (D) 学術雑誌等の編集

| 学術雑誌等の名称         | 査読・編集 | 委員長 (主査)・委員<br>の別 | 氏名     | 査読編数 |
|------------------|-------|-------------------|--------|------|
| 日本母性衛生学会誌        | 査読    | 委員                | 波崎 由美子 | 3    |
| 第62回日本母性衛生学会学術集会 | 査読    | 委員                | 波崎 由美子 | 5    |
| 日本生殖看護学会         | 査読    | 委員                | 嶋 雅代   | 0    |

## (E) その他